



信州つばさプロジェクト留学報告書

「グローバルインターンシップコース」 (マレーシア)





信州つばさプロジェクト

「グローバルインターンシップコース（マレーシア）」

経済発展が著しいマレーシアで、日本を拠点にしながらも現地に展開する企業等でのインターンシップを通して国際感覚を養い、グローバル時代の経済を体感する。また、現地の高校生・大学生と交流する体験を通じて、多民族国家マレーシアでの異文化を体験し、コミュニケーション力を高めることを目的とする。

- ・期 日：令和6年1月20日（土）～26日（金）
- ・人 員：生徒16名（うち1名は専門学科から選抜）、引率2名
- ・日程表

日次	期日	地名	時刻	日程
1	1/20 （土）	成田空港 発	午後	○成田空港集合 搭乗・出国手続き、空路にてクアラルンプールへ
2	1/21 （日）	クアラルンプール到着・滞在	夜 午後	○クアラルンプール着 ○マレーシア歴史文化体験 ・新王宮、国立モスク、国立博物館、 ペトロナス・ツインタワー
3	1/22 （月）	クアラルンプール滞在	終日	○SERI RAMPAI 校を訪問し、現地大学生と交流 ○マレーシア歴史文化体験 ・マレーの伝統料理を調理
4	1/23 （火）	クアラルンプール滞在	終日	○グローバルインターンシップ ・フードビジネスコース （イオンマレーシア） ・ツーリズムコース （ANA クアラルンプール、日本政府観光局、マレーシア政府観光省管轄の市内観光センター、ホリデイインエクスプレスクアラルンプール）
5	1/24 （水）	クアラルンプール滞在	終日	○グローバルインターンシップ ・フードビジネスコース （オタフクソースマレーシア、HOKTO マレーシア） ・ツーリズムコース （ホリデイインエクスプレスクアラルンプール、J-Horizons Travel）
6	1/25 （木）	クアラルンプール滞在	終日	○現地学生との B&S 交流プログラム
7	1/26 （金）	クアラルンプール 発 成田空港 着	朝 午後	○空港へ移動、クアラルンプール発 ○成田空港着、解散



※B&S（ブラザー＆シスター）研修：兄弟姉妹のように交流しながら実施する研修

◆事前学習：令和5年9月16日、12月3日、12月9日、令和6年1月13日

THE IMPORTANCE OF COMMUNICATION

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は今回の研修を通して、多くの疑問を持ち対話を通して学びを深めることが、目標のひとつでした。参加前の私は、質問することに積極的な方ではなく深い学びができていなかったと思います。しかしマレーシアへ行って、言語が違うなかでも勇気を出して積極的に質問をし、学びを深められたことは、自分にとってたいへん大きな強みになりました。また、英語のコミュニケーション力にも自信ができました。私は今回の研修が初めての海外で、自分の英語が現地の人に伝わるのかとても不安でしたが、自分が伝えたいことが相手に通じて、互いが理解し会話が弾んだときは、他言語の会話での楽しさを身にしみて感じました。一方で、発音が相手に伝わっていなかったり、伝えたいことをすぐに英語に変換できないことも多々あり、英語の勉強がまだまだ足りていないことも痛感しました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアを訪れてみて感じたのは多民族・多文化であり、互いが尊重し合って生活しているということです。マレーシアは、マレー系や中華系、インド系など多くの民族が共生しています。そのため、街を歩くと様々な言語が話されていて、多くの看板がマレー語、英語、中国語の3か国語で表記されていました。食文化も多様で、甘いものと辛いものが多く、味付けがはっきりしていることが印象的でした。また、街中には日本のコンビニがあったり、ショッピングモールにも日系企業が多く入っていて、マレーシアが親日国であることがわかりました。コンビニやスーパーに行った際に店員さんが簡単な日本語を話してくれることが多く、とても嬉しかったです。一週間滞在してみて、多様な文化が存在するマレーシアに住む方々は、とてもフレンドリーで異文化をしっかりと理解しているという印象を持ちました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは、海外で活躍している日系企業3社の訪問と現地のホテルでの研修をしました。特に印象深いのはANAです。航空業務のイメージが強かったのですが、ANAでは、より多くの方に利用してもらうための広報活動も活発に行われていることがわかりました。将来は空港で働きたいという夢があるので、航空会社の業務内容を詳しく知ることができとても有意義な時間になりました。今回訪問したすべての企業に共通して学んだことは、異文化に配慮しながら業務を行っていること、そしてなによりコミュニケーションを頻繁に取ることがチームワークの向上につながるということです。また大学生との市内視察では歴史の背景を学びながら、建造物を見ることができました。学校訪問では、日本語や日本のアニメのことをたくさん話していて、日本の人気さや日本には誇るべき文化がたくさんあることを再確認しました。

4 今の目標や今後の進路について

私は、今回のマレーシアでの貴重な経験を通して、異文化理解と他言語でのコミュニケーションの楽しさを学びました。まずは英語力向上のために英検準一級やTOEICのハイスコア取得を目標に日々の言語学習に励んでいきたいと思います。また、海外で活躍する日本人の方の姿をみて、海外で活躍したいという強い気持ちが生えました。私は、空港での仕事に興味があるので、大学で外国語や観光学をしっかりと学んで、グローバルに活躍できる人材になりたいです。また、マレーシアへ行って英語以外の言語にも興味を湧いたので、コツコツと学んでいきたいと思います。

5 帰国後の活動

今回マレーシアで見てきた景色をSNSに投稿したり、友達にシェアすることにより海外の魅力を発信しました。身近な媒体であるSNSでの共有によって、少しでも多くの人に海外への関心を持ってもらえたのではないかと思います。今後は、信濃毎日新聞の紙面掲載の応募や、クラスへの報告を考えています。今年度行った探究活動にも学んだ要素も取り入れる予定です。



現地の大学生と

スルタン・アブドゥル・
サマド・ビル

グローバルインターンシップ in Malaysia

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

まず、言語が違う相手でも、コミュニケーションを積極的に取ろうとするだけで、その思いが伝わり、英語が苦手な自分でも楽しく話せていろんなことを聞いたりできるということを現地の人たちと実際に話すことで学び、積極的にコミュニケーションをとることを心掛けるようになりました。

また、参加前は、イスラムの文化とハラルに対しての知識や関心もあまりなく、「イスラム教の人たちが食べられるもの」程度の認識でした。ですが事前講習会で、イスラムの人々について学びハラルに対しての関心が高まりました。さらに、実際に現地の売り場等に行って、売り場のハラル対応の商品を見たり食べたりすることで、より一層、ハラルに対しての理解と関心が高まりました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアにいて思ったのは、時間がゆったりと流れているような気がしました。町ゆく人や店員、どこを見てもみんなマイペースでした。人柄がとてもよく、良くも悪くも、日本のようなマニュアル通りの接客をするという人は一切いないように感じました。

しかしマイペースで済ませてはいけないと思う問題も多く、特に感じたのは交通面の問題でした。二人乗りや、赤ちゃんを抱いてバイクに乗るような人さえいました。青信号は一秒ついていればいいほうで、信号無視は当たり前で車と車の間をすり抜けるようにして道を渡る人さえいて、交通整備の必要性を強く感じました。また、都心を抜ければ、道がすごく汚れていたりたくさんのホームレスが道で寝ていたり、日本との違いを強く感じました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

コミュニケーションの大切さを一番感じました。みんなとても真剣に話を聞いて理解してくれようとしていたり、ゆっくり話してくれたりして、会話を楽しむことができました。そして、それが相手にも伝わって英語が苦手な自分でも会話が弾んでいい時間を過ごすことができました。

また、日本と比べて他人を尊重する考え方の人が多く、目の前で豚肉を食べている人がいたらどう思うかという質問に対し、その人にはその人の信じるものがあるからと、否定的な考えを全く持ち合わせていませんでした。多民族多宗教の国というのもあるでしょうが、みんながそのような考え方をしているからこそ、笑顔が多く、観光客にも友好的な人が多いのだなと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

現在の目標は、現地の食材をネットなどで取り寄せて、和食や洋食などの料理に使えるか、日本の食材で現地の料理を作るかを考えたり、実際に作ってみたりして、今後の自分の料理をする上での知識や、将来仕事をするうえで、等様々な場面に活かしていきたいと思います。

そして、今回の研修で感じた自分の一番の課題であるコミュニケーションについても、これからいろんなところで活躍できるようになるために、もともと苦手なコミュニケーションにもう一回焦点をあてて、うまく人とコミュニケーションをとっていけるようにまずは人とたくさん話していこうと思いました。

5 帰国後の活動

まずは自分の所属するライフデザイン科のフードデザインコースで参加者を募り、マレーシアで食べた料理のことを話し、実際に作ってみようと思います。

また、機会をいただければ資料を作り、料理以外にもたくさん学んできたことがあるのでそれを全校の人に広められればなと思いました。SNSにも今回の活動をアップし、少しでも広められればと思います。



料理教室で作ったナシマレク



ペトロナスツインタワー前で撮った集合写真

異文化に触れる

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は帰国後、以前よりも物事を見る視野が広がったと感じました。現地の日本企業に訪問してお話を聞いた際、なぜマレーシアを選んだのかという点が多々話題に出ました。そこで数ある国家のなかで自分たちの企業がニーズに答えられそうな地域に進出するには、様々な視点から世界を見るのが重要なのがわかりました。そのことから帰国後、ものごとについて自分だけの視点ではなく自分とは異なる立場の人の視点からも考えることができるようになったと思います。他の人の立場になって考えよう、というのは以前からよく言われている言葉ですが、実際にその大切さを実感できました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

まず、自分の中でのイスラム教徒、宗教への印象が大きく変わりました。今まで宗教にほぼ関わりのなく生きていた私はなんとなく宗教の規律に従って生きるのは可哀想だ、という先入観を持っていました。しかし、実際にイスラム教徒の方々と接してその考えが全く間違っただけのものであるのがわかりました。それぞれが自分の宗教に誇りを持って生き活きとしているように感じ、日本に居ては捨てることのできなかった固定観念だと思いました。その一方、特にクアラルンプール市内での貧富の差を目の当たりにしました。都心部では発展した高層ビルのすぐそこに寝そべっているホームレスと思われる方が居たり、これもまた日本ではあまり見られない光景で考えて行かなければならない課題もあるのだと感じました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは日本とは違うマレーシアの文化や生活習慣に適応して商品を販売・開発している工夫を知ることができました。特に試食販売をした際にはお客さんと接する際に日本人との違いを感じたり、自分の意図することを他人に、ましてや文化の違いがある人々に伝えることの難しさを学びました。

大学生との市内視察、学校訪問からは特にマレーシアの人々の日本の文化や日本人への好意を感じることができました。学校訪問の際にはマレーシアの人々の「おもてなし」の意識が優れていることを知ることができました。人を喜ばせることに一生懸命な姿勢は見習いたいです。

4 今の目標や今後の進路について

私は将来の夢についてはまだ決まっていません。だからこそ今回のインターンシップに参加し、自分の将来の幅を広げようと考えました。私は現在異文化の共生や偏見の形成について興味を持っています。それらについて実際に多民族が共生する社会に触れて、考えを深めることができました。また企業に訪問させていただいた際には事業についてだけでなく他国、違う文化の中で生活することについてのお話もきかせていただきました。今回のインターンシップで自分の将来についてより具体的に考えることができたと思います。

5 帰国後の活動

すでにクラス内では時間をとって発表をさせてもらいましたが、全校の前で発表させていただく機会も用意してもらっています。その際により自分たちの学んだことを具体的に伝えられるように意識して、私達と同じようにマレーシアやフードビジネスに興味のある生徒にも経験を共有したいです。またSNSなどを通して自分の経験を広めていけたらと思います。



試食販売の様子



ペトロナスツインタワー

留学から見える将来像

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

僕はこの信州つばさプロジェクトに参加する前から、海外に関係した職業に興味がありました。このプロジェクトのグローバルインターンシップコースには、実践的なホテル業務や、企業の方のお話を伺う機会がありました。海外で働く進路を考える材料の一つとなると感じました。研修中には、様々な形で海外で働いている方々の話を直接お聞きすることができました。海外で働く将来像をより忠実に思い描けるようになりました。また、アジアの国々への異文化理解が高まりました。アジアのイスラム教文化を、身をもって触れたのは初めてでした。宗教を尊重し、理解することができました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアは多民族国家であり、様々な人種が暮らしている国であることは事前学習会で知りました。日本に暮らしていると、イスラム教の文化に触れることがないので現地に行って初めて触れることができました。食べ物を手で食べる文化は、箸を使って食事をする僕にとってはとても新鮮なものでした。マレーシアでは毎日スコールが降ります。学校の授業で知識としてスコールを学びましたが、実際に体験すると気候の違いを目の当たりにしました。宗教、食文化、気候など、同じアジアでも日本とは大きく異なるということを改めて感じました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

ホテルでのインターンシップはハウスキーピング、受付、食事スペースの三つの仕事を体験しました。自分自身ホテル業務の経験がなく、テーブルの片付けや部屋の清掃はとても難易度の高いことでした。お客様からの要望や質問といったイレギュラーな業務もこなす必要がありました。コミュニケーションが必須である業務を実際に体験できた良い機会でした。大学生との市内視察では、マレーシアの文化に触れるとともにお互いの国の文化を共有することができました。散策をしながら日本文化との違いを語り合い、異文化理解に努めました。現地で生活している方の話を伺えてよかったです。学校訪問では、マレーシアの人々の国民性に触れました。日本のアニメや観光地について詳しい学生も多く、マレーシアが親日国であると再認識しました。

4 今の目標や今後の進路について

今回の信州つばさプロジェクトに参加する前から、海外で働くことに興味がありました。グローバルインターンシップコースでは、実際に海外のお客様を相手に業務をする機会がありました。この経験は、将来自分が海外で働く将来像をよりリアルに考えられることにつながりました。ANA クアラルンプール支店では、実際に駐在員として海外で働く方の声を直接聞くことができました。日本の企業に就職し、海外に駐在することのメリットデメリットを知りました。J-horizons 社では、マレーシアで起業された方のお話を伺えました。海外で働いたり、生活したりする上で、大切なことを教えてくださいました。

駐在員として働く、起業する、現地で就職する、などのさまざまな形で海外勤務を知ることができた貴重な機会でした。

5 帰国後の活動

来年度信州つばさプロジェクトに参加したい生徒、興味のある生徒に向けてマレーシア研修での経験を学校内で発表したいです。マレーシアの魅力や文化を紹介し、留学の素晴らしさを知ってもらいたいです。長野県内からの留学生を増やしていけるような魅力発信を行っていきたいです。信州つばさプロジェクトへの参加者を増やす活動を行っていきたいです。



ホテル業務当日の集合写真



ANA クアラルンプール支店での学習

初めての海外

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

留学前は物事に対して、なかなかチャレンジしたいとは思わなかったけれど留学してからは、チャレンジ精神が旺盛になった気がします。留学中で、特に学校訪問やインターンシップ中の対面販売、ブラザー&シスタープログラムを通して英語力の無さを痛感しました。そこで帰国後は英語の勉強により力を入れて、英検取得や外国人の方ともっと関わりたいと思うようになりました。また、日本とは違う文化を体験したことで視野が広がりました。多民族国家ということで、互いの文化を尊重し合っているマレーシアはすごいと感じ、私も相手をもっと尊重する気持ちを持ちたいと思いました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

留学前のマレーシアに対する印象は暑くて自然豊かで多民族国家、という印象でした。実際に行ってみると蒸し暑くて、自然豊かだけど背の高い建物が沢山ありました。普段、長野県に住んでいてなかなか東京などの都会に行く機会もなかったので、背の高い建物が珍しく、ずっと上を見上げて歩いていたような気がします。面白いなあと感じたのは都心から少し移動するだけで、がらっと景色が変わることです。木々がたくさんあって、背の低い建物だけになり、移動中も外の景色を見ていて飽きる事はありませんでした。

また、マレーシア人はもちろん、中華系の方やインド系の方など本当に多民族国家で日本と違っていて新鮮でした。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップで学んだことが多かったです。同じ企業でも日本と海外では販売している商品や製造の仕方が違って面白いなあと感じました。私自身もそうですが海外の商品、特に食品はスーパーで見かけてもなかなか手を出したいとは思いません。そんななか、味や見た目、販売方法、宗教上の配慮などを工夫してヒットさせていくのは大変だけど面白そうだなと思いました。

大学生との市内視察や学校訪問で学んだことは、英語力あり無しの前にコミュニケーション能力が必要だと感じました。特に市内視察で、話したいことや聞きたいことがあっても上手く関われなかったです。

4 今回の目標や今後の進路について

今回の経験で、特に進路が決まった訳では無いのですが、初めて海外に行って日本とは違う文化や食事、風景を感じて、マレーシア以外の国にも行ってみたいと思いました。今回の留学は英語力に自信がない状態だったので、交流会やブラザー&シスタープログラムではなかなか思い通りにいかず、悔しい思いをしました。そこで、また海外へ行く時のために英語力とコミュニケーション能力を上げたいと思っています。また、普段外国人の方と関わることがないので、交流会などのイベントがあれば積極的に参加したいです。

5 帰国後の活動

授業の時間を使わせてもらい、クラスのみんなにどんな体験をしたか、どんな場所だったのかなどの紹介をしました。マレーシアから帰国してすぐ作成したスライドだったので、より正確な資料が作れたと思います。今はまだクラスのみんなに紹介しただけだけど、マレーシアや日本と海外の企業の違いなどに興味を持っている人に今回の経験を紹介出来たらいいなと思います。



1 番美味しかったもの



異文化体験

The New Me ～ a new discovery ～

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

今までの私は自分の意見を伝えることが苦手だったのですが、今回の留学で様々な企業様に訪問させていただき常に自分の意見を求められる環境にいたことで積極的に自分の意見を伝えられるようになりました。また、これらのことは学校でも活かされており、今までは何をすることも他人の意見を聞いてからだったのですが、留学後は自ら考え行動し、自分の意見をはっきりと伝えられるようになりました。更に、コミュニケーション能力も上がったと思います。現地のスーパーやショッピングモールに行った際、そこにはもちろん日本語が通じる人はいなかったため、自分の知っている英単語を絞り出して会話をするか、ジェスチャーで伝えるかしか選択がありませんでした。基本は英語での会話でやり取りが出来たのですが、英語圏ではないので英語が伝わらない方も多くいました。そういったときにジェスチャーでのやり取りが必要だったので、自らどんどん体を動かしたり話しかけたりしたことでコミュニケーション能力が今までよりも上がったのではないかと思います。

2 マレーシアに対する理解や印象について

ショッピングモール内での自由行動の時間にお店の方をはじめとする沢山の方とお話をさせていただいたのですが、皆さんとても親切で日本のことを知っていると伝えてくれた方も何人もいました。マレーシアの方々の人柄の良さがとても印象に残っています。

また、ハラルフードに特に気を使っているのも印象に残っています。現地の学校を訪問させていただいたときにお土産として日本のお菓子を持っていったのですが、材料に何が使われているのか、一つ一つ聞かれました。日本で暮らしていると原材料名まで気にして買い物をする機会はありませんので、今回お土産を買うときに確認をするのがとても新鮮でした。マレーシアの方々は、自分は大丈夫でも他の人は食べられないということなども考えているところがとても感心しました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップで特に印象に残っているのはホテルでの研修です。私はフロント業務と食事会場のセッティングをやらせていただいたのですが、特にフロント業務のときにはお客様と接する機会が多く、ホテルの顔として行動するという自覚がとても芽生えました。英語以外の言語で話しかけていただくことも多く、なかなか理解ができずに苦労した部分もありましたが、スタッフの方はジェスチャーなどで意思疎通をされていてとても驚きました。

大学生との市内視察では、現地の若者が知るおすすめ場所に連れて行っていただきました。その中でバスや電車に乗る機会があったのですが、バス・電車ともにスピードが速いこと、電車の切符がプラスチック製のコインで、乗り終わったら回収されて繰り返し使われていることなどに日本との違いを感じました。特に切符は、環境に配慮されていて素晴らしいと思いました。

学校訪問では、私達が学校につくと民族衣装を着た沢山の学生さんが手を振って出迎えてくれました。多民族国家だということを直に感じたのと、マレーシアの方々が人懐っこいと言われている理由がわかった気がしました。

4 今の目標や今後の進路について

私は幼い頃から人と話すことと旅行が大好きだったので、観光に関わる仕事に就きたいと思っていました。そんな中で見つけたのが今回の留学プログラムでした。その留学から帰ってきた今も、観光に関わる仕事に就きたいという気持ちに変化は無く、むしろ今回の経験でよりその気持ちが強くなりました。ですが、大学進学は今のところ看護系の道に進もうと考えています。旅行で人と関わり、人に幸せを与えられるようになりたいと思うとともに、医療の行き届いていない地域に看護師としてボランティアをしたいとも思うようになりました。どちらにせよ、高い英語力が必要になると思うのでまずは英語のスキル UP を目標にしようと思います。

5 帰国後の活動

SNS に、留学中の写真に一言添えて投稿しました。たくさんのメッセージが送られてきたので、より魅力を伝えられたのではないかと思います。

また、クラスでは報告会を行いました。質問を出してくれた人もいたので留学の良さ、マレーシアの魅力をたくさん伝えることができました。今後、全校の人たちにも報告をしたいと考えているので、先生たちと相談し、そういった場を用意しようと思います。

これからもたくさん魅力を伝えられたらと思います。



ホテルでのフロント業務



仲良くなった
店員さんがいる
ドーナツ屋

新しい環境での成長

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

行動の面で言うと、初めは英語に自信がなく、英語で話しかけることに躊躇していたが、現地の方と関わる毎に自分の言葉で伝えたいという意識になって、積極的に話題を見つけて話しかけることができるようになった。

インターンシップでは座学も沢山あったり班のメンバーと意見や反省点を話す機会が多くあった中で、疑問に思ったことや考えを言葉にする事が増え、自分の意見に自信を持つことができるようになった。

信州つばさプロジェクトに参加して、マレーシアの方との交流を通してだけでなく一緒に参加していたみんなから刺激を受けることも多く、自分の考えの未熟さに気づいたり積極性に感化されたりして、成長することができた。

2 マレーシアに対する理解や印象について

多民族・多文化で、様々な人種の方が良い関係で共存している印象だった。人が優しく、明るくて暖かいので、私達も自然と笑顔になれる。

現地の学生の方と交流したときには、豪華な民族衣装を着て、伝統舞踊や歌などを披露してくれて、おもてなしの精神が素敵だと思った。また、日本の歌を日本語で歌ってくれた方もいたり、日本のアニメが好きだという方もいて、日本について興味を持ってくれていた。

スーパーで行ったオタフクソースの実践販売では、話しかけると言葉で返してくれて、断るときにもはっきり「No」と言ってくれるところが、日本人との違いを感じて、良いなと感じたところ。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

学校訪問をした際に学生の方々が民族衣装や伝統的なパフォーマンスを沢山披露したりマレーシアの遊びをしたりして、学校全体で歓迎してくださって、私の学校でも海外の方や学生と交流をする機会が多いので、そういったところからおもてなし方を学ぶことができた。

私はフードビジネスコースに参加していたので、ハラルについて学ぶことができた。特に、イスラム教徒の人口が増えてきているため、ハラル認証を取ることでビジネスに大きな利益をもたらすということを知り、興味を持った。

4 今の目標や今後の進路について

今回信州つばさプロジェクトでマレーシアに行ったことで、英語を使って会話したりコミュニケーションを取ることが楽しいと実感でき、英語を使えるような職業にも興味を持った。またそうでなくても英語は様々な場面で必要とされるので、今以上の英語力の向上を常に心がけて大切にしていきたい。

もともとビジネス関係の分野に興味があり、ハラルフードを通して宗教がこんなにも大きなビジネスに関係するということを学んで、自分の興味があることだけ調べていてもそこから先の発展はないと実感したので、多様な分野について知っていこうと思った。また、今回学んだことをより深掘りしたりして、自分の理解の幅を広げていきたい。

5 帰国後の活動

クラスなど学校だけでなく、校外で参加している活動で同じチームの方たちにも、どんなことを見聞きしてきたのかを報告し、それを通して他国の文化や宗教、歴史的背景などを現地の方から直接聞いたり、自分で体験して学ぶことの大切さを伝えたい。

また、自分自身初めての海外で分からないことが多かったり、またマレーシアという馴染みがない国へ行くことに不安はもちろんあったが、普段知る機会がない国だからこそ新しい文化や歴史と出会えて、挑戦してよかったと思えたので、海外に留学をしたりプロジェクトに参加したいけど躊躇っている人を後押しできるように様々な場面でこの経験や体験を話していきたい。



KL タワー
みんなで楽しく観光



SERI RAMPAI 校訪問
素敵な衣装で歓迎してくれました

「文化を受け入れる」ということ

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は海外での経験や観光業を通して日本の強みと弱みを知り、日本の文化を世界へ伝えていく手がかりとなるものを見つけるために本プロジェクトへの参加を決めた。研修に参加する前の私は「日本の文化をどのように広めていくのか？」ただその一点について考えていたのだが、マレーシアの人々や生活に触れる中で、自身の問いは極めて偏狭であったことを痛感した。海外の人々に日本のことを知ってもらうためにはまず海外のことを理解する必要がある、それも異なる国の文化を知識として理解するだけでなく、相手国の経済力や国民性、価値観をもって同じ目線で日本を観察することでターゲットの需要と課題が見えてくるのだと学んだ。また、今までの私は新しいものに触れても自分の持っている先入観と比較するばかりであったが、何事をも受け入れるような現地の空気に触れることで、他者の価値観を純粋に受け入れられる心が養われた。

2 マレーシアに対する理解や印象について

事前学習や本を通して宗教や文化についての基礎知識は学んでいたものの、マレーシアという国についてははっきりとしたイメージが持てずにいた。しかし、一言では表現できない様々な価値観と生活が共存している多様性こそが、この国の魅力であると気づいた。マレーシアは多宗教国家であるが、現地の人々が相手の宗教観を尊重しようと無理に意識している様子はなく、当たり前にあるものとして自然に付き合っている姿や異なる宗教への寛容さが印象的であった。研修の中で出会った人々は皆フレンドリーで、うまく言葉が伝わらない時に親切に対応していただいた経験からも、多民族国家という特性からなる他者への寛容さや現地人の温かい国民性がマレーシアの心地良い空気を作り上げているのだと感じた。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

訪れた企業や施設すべてにおいていえるのは、第一に各人の宗教に対応できる環境づくりをしていることである。インターンシップ先のホテルには様々な国の人が滞在していたが、朝食に豚肉や牛肉が出てくることはなく、また研修を行った旅行会社ではムスリムの社員に配慮して断食期間中は他の社員もデスクでの飲食を避けているという話を聞いて、信仰に関わらず皆が快適に働けるようにそれぞれが工夫を重ねていることが分かった。第二に広報活動が活発な点である。高校生も SNS を用いて積極的に学校の様子を発信している姿が印象的で、日常生活における ICT の活用度合いは私たちも参考にするべきだと思った。そして学校訪問や大学生との交流から、海外の人々に関わるうえで言語力以上に大切なことは自分の感情を伝えようとする熱意だと考えた。同じ環境で育った人とは会釈だけで完結するやり取りも文化圏が違う人には笑顔で "Thank you." と口に出さなければ伝わらない、頭ではそれを理解しているつもりだったが、人々とスムーズに意思疎通が図れなかった経験から自分の考えを素直に表現することの大切さに気づかされた。

4 今の目標や今後の進路について

本プロジェクトを通して「日本の文化を世界へ広げていきたい」という私の思いはより強固なものとなった。マレーシアでの貴重な体験から、日本のグローバル化における課題は様々な宗教への理解不足であると感じたため、今後は宗教という観点を軸として世界の文化や生活に関する理解を深めることで、日本固有の美しい文化を受け入れてもらえるような土壌を各地に作っていききたい。また、私は今まで英語の学習に力を入れてきたからこそ、言語力だけでは世界を渡り歩くことはできないと痛感した。基礎知識を前提としてコミュニケーション力や行動力、不測の事態への柔軟な対応力を身につけるため、大学在学中に再度留学したい。

5 帰国後の活動

在籍校では学年を対象に訪日観光業について学んだこと、そして海外へ行くことの意義やその地で得られるものについて伝えるための報告会を検討している。また、広報活動の一環としてフォトブックの準備を進めている。マレーシアの生活や文化の特色をまとめた冊子を施設等に展示していただき、テキストよりも写真という媒体に私の思いを載せることで、それを手に取った人が海外や留学を身近に感じる手助けになれることを願っている。



午前8時の車窓より



ムルデカを眺む

海外研修 in マレーシア

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このプロジェクトに参加する前の自分はミスをすることをすごく恐れていて、特に人前で間違えてしまうと小さなミスでも落ち込んでしまっていました。またミスをするのを恐れていることから、自信を持てず、つい縮こまってしまったり、「きっと誰か代わりにやってくれるだろう。」と考えたりすることが多かったです。そんな自分を変えるため、人間的に必ず成長すると目標を定めました。そして事前学習でのやりとりや、約1週間の本研修を通して、「他人任せにしないで自分でやらなきゃ。」と自分に言い聞かせて取り組みました。全部までは実行できなかったのですが、自分から率先して動くことを意識して行動できたので、帰国後に周りの方々から、「なんか前より自立しているね。変わったね。」と何度か言っていただき、少しでも変わった事を実感できました。帰国後も自分から率先して動くことを意識して授業中や人との関わりの部分で積極的に行動することを心がけています。

2 マレーシアに対する理解や印象について

わたしは本研修を通してマレーシアのことが大好きになり、また必ず来たいと思える国になりました。なぜなら、マレーシアで関わった方々全員が温かく優しく接して下さり、緊張だらけの私も楽しく活動できたからです。とくに SERI RAMPAI 校で知り合った高校生とはすぐに打ち解けて、お互いの話を沢山できました。今でも SNS でコミュニケーションをとっています。マレーシアの人々はいろんな場面で少しルーズなところもあると思いました。例えばクアラルンプール空港に着いた時の税関では特に質問も無く、ただ通路を歩いただけで終わりましたし、時間通りに物事が進まないことが結構あります。ですが、マレーシアのそのルーズな部分も含め、お互いの相手文化を尊重し、自分の文化も主張できる雰囲気が多民族多文化の成り立つ理由のひとつなのだと感じました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

まずわたしはマレーシアに行って自分の英語のスピーキング力とリスニング力不足を実感しました。普段から英語を聞いて話す機会が少なかったことが原因だと思うので、マレーシアから帰ってきてからは英語のニュースや動画を毎日見たり、学校の英語の先生と授業前後に英語で話をするようにしています。また、マレーシアでいろんな方々と話す際に、日本の文化や人気なアニメについて聞いてくれるのですが、自分が普段から見えてなかったり、意識できていなかったりしたので答えられなかったことが何回もありました。だからまずは日本についてもっと知らなければならないと思いました。日本について知ることはまだ日本に帰ってきてからまだ何も行動を起こせてないのですが、日本の文化について知ると同時に英語で説明できるようにしたいです。

4 今の目標や今後の進路について

私は将来、海外に身をおいて、国際社会にて貢献できる人間になりたいと考えています。そのために高校卒業後は大学に進学し、国際社会についての学習を深めた後、留学して海外での経験を積み、日本では学べることができないような多様な価値観や文化、言語を身につけ、色々な国の人々と交流したいです。したがって、高校生のうちに今回の研修で学んだことを意識して、英語だけでなく日本語でのさらなるコミュニケーション能力の向上を目標としています。特に日本の文化や歴史について自分の知識が足りない部分があるので、本やテレビなどを始めとするメディアから吸収し、人に紹介できるようになりたいです。また自分の将来の夢を叶えるために大学受験などの試験に向けて日頃から勉強の習慣をつけ、頑張ります。

5 帰国後の活動

私はまず自分のInstagramのアカウントにマレーシアの情報や経験を実際にマレーシアにいたときに更新していました。帰国後にも何をしたら振り返りながら少しずつInstagramに更新を継続しています。また自分の通っている学校でも報告会を予定していて、自分がこの研修を通して何を学んだのかを伝え、そしてみんなにも信州つばさプロジェクトだけではなく海外留学自体にも興味をもってほしいと伝えます。



マレーシアの伝統衣装



ホテルレストラン研修

多民族国家「マレーシア」

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

外国人とコミュニケーションを取る経験がほとんど無かった私は、現地の人達としっかりコミュニケーションを取れるのか懸念していたが、現地の人たちは親切で優しい人柄の人が多く、私が英語をうまく話せなくても一生懸命聞き取ろうとしてくれたり、伝わりやすいようゆっくりと話してくれたり、ジェスチャーで伝えたりと歩み寄ってくれたおかげで、想像よりも簡単に意思疎通することができた。外国人とコミュニケーションを取るには、知識や経験も大切だが、なによりお互いが言語の壁を乗り越えてコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大切であることを学んだ。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアは日本と比べると建築物が小規模であったり、市場に出回っている商品のレパートリーが少ない国だと思っていたのだが、いざ行ってみると全くそんなことはなく、日本より大きく独創的な建築物が多かったり、日本にはない沢山の商品が至る所で売られていたり、マレーシアは想像以上に発展した国であることが分かった。そして、マレーシアは多民族国家であり多種多様の言語、文化、宗教が存在していて、互いが互いを認め尊重しあっていることや、イスラムの教をを重んじている国家であること、世界の歴史に大きな影響を与えた国であることが分かった。マレーシアで生活している人たちは、異文化を理解する力が他国の人たちと比べてもあるのだと感じた。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは、訪問したそれぞれの会社がなぜマレーシアに進出したのか、マレーシアに進出してどのように自社の商品をマレーシアの人達に販売しているのかなど、マーケティングにおいて重要なことや、自社の商品を販売する難しさを学ぶことができ、試食販売や料理体験などの貴重な体験ができた。市内視察では、大学生と英語でコミュニケーションをとることができていい体験ができ、マレーシアの風景を見ることでマレーシアのことをより知ることができた。学校訪問では、学生が多種多様な民族の伝統の踊りや歌を披露してくれたり、マレーシアの遊びを一緒にしたり、民族衣装を着たりと、マレーシアの文化をより間近で感じる事ができた。

4 今の目標や今後の進路について

インターンシップで学んだことを深く追求するために、海外へ事業展開して日本食品を販売している企業を見つけて、多くの外国人に日本食を知ってもらう方法や、異なる文化を持つ人たちに日本食を美味しく食べてもらうために必要なことや工夫すべきことなどをより細かく知ろうと思った。更に、研修では外国人と会話する場面がたくさんあったが、英語に耳が慣れていなかったことや英会話の経験不足などが原因で満足にコミュニケーションをとることができない場面が多くあったので、今よりも英単語や文法の知識を深めたり、洋楽や海外の映画などを聞くことによって本場の英語に耳を慣れさせてリスニング力の向上を目指したりと、英語を熱心に勉強する。

5 帰国後の活動

自身の Instagram のアカウントと学校のホームページに、マレーシアでの生活や観光、インターンでの様子、感想、学んだこと、体験したことなどを写真や記事にして掲載し、より多くの学生に海外の魅力や留学体験について伝え、留学を希望する学生を増やすようにする。また、作成したスライドを使って自分の学校で全校にプレゼンテーションを行う。

マレーシアの代名詞
ツインタワー

イオンマレーシアでのインターンの様子

人を知って、自分が変わる留学。

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

春から高校生になって視野が広がったと感じていましたが、異なった考えや歴史を持つ人々と交流し作業することで、その考えを改める事になりました。マレーシアには多文化の国です。見方、感じ方が違うからこそ多くの人の意見に耳を傾ける必要性を教えてくださいました。宗教も人種も違う人が多いので、明確な考え方の違いを感じました。自分の視野が広いと思っていても別の人の考えを尊重しなければ、独りよがりになってしまいます。異なる人をリスペクトし、視野を取り入れることがより良い選択をする大事な点だと学びました。それからは、相手の思い、考えを受けとめる、そこから自分の考えと照らし合わせることをしています。

2 マレーシアに対する理解や印象について

昔から交易や、資源採集のために多くの人が行き来した国です。その中で別の文化、別の人種が定着してきました。角を曲がれば別の文化、そんな印象を街全体から受けました。

一番学びを得たのは人々の考え方です。イスラム教の方が多く、断食の時期には水さえ飲みません。そんなときは別の宗教の人たちも目の前で水を飲みません。これは日本だと絶対がないことだと思います。また、サプライズが大好きで新しく訪問した人をとても歓迎してくれます。このように相手を楽しませ、文化を尊重してくれます。自分には自分の信教、考え方がありそれをとても大事な軸として持っていました。人々の様子からマレーシアに対する考えをより深めることが出来ました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

ホテルでのインターンの初めは自分のことで手一杯でした。ある時、お客様がとても不安そうに受付まで来られました。その不安げな顔を見て、自分からしたら一瞬の仕事でも、お客様から見ると人生の大切な思い出を刻んでいることに気がきました。相手の思い、考えを受けとめることの大切さを痛感しました。

大学生からは大事な話を聞きました。マレーシアは多文化共生の国ですが、差別をされたことはあるかと尋ねてみました。その方は中国系の血が入っていました。彼女は差別をされたことはないが自分たちは少数派で、それを多くの場面で感じるとおっしゃっていました。どんな場面でも少数派が生まれる。今、私は学校で議長という立場をしているので、このことは大切にしたい事です。

学校訪問では多くの刺激を受けました。まず、敷地に入ると、民族衣装を着て多くの方が歓迎してくださいました。私には全くない発想でした。また、英語が公用語として使われていました。見習わないといけないと強く思いました。

日本文化の話も多かったです。自分が知っているものを相手も知っている喜び、これは世界共通だと確信したので、更に他の国々の文化も勉強したいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

異なる人、文化を理解、尊重しようとする姿にととても感銘を受けました。同時にこんな人たちと共に学び、仕事をしたいと考えました。彼らの、非常に前向きで過去にとらわれない姿勢を何度も見て、このような人々にこれからの世界を動かしてほしいと強く思いました。

自分は人と話すのが好きで、人と人の間に立つ仕事をしたいと思っていました。ですので、観光か商業の道に進み、マレーシアという国、マレーシアの人々を世界と繋いで行きたいと思っています。そこで、英語の勉強と共にビジネス等も学んでいきたいと思っています。また、マレーシアで見た人々の姿を見習いながら実生活を送ります。

5 帰国後の活動

まずは自分の周りの人たちにこの留学体験で得られたことを伝えていきたいです。その中で、うまく伝える方法を模索したいと考えています。マレーシアという国の魅力は、その現地の何気ないことから多く感じました。ですので、日常生活の中での気づきを中心に写真と共に広めていきたいです。

これは留学体験でないと難しかったことだと思います。また、このような人と人とのつながりといった観点の他にも、自分が学んだツーリズムコースでのノウハウを使い、地元でどのように活かせるかを実際にやってみて効果を伝えていきたいと考えています。



学校訪問で出来た友達たち



大学生との市内視察でのマレーシアの町並み

大きな一歩

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私はマレーシアのインターンシップに参加する前までは、何事にも取り組もうという気持ちがありませんでした。このプロジェクトに応募した時も友人が参加するからなんとなく自分もやって見ようかな、という軽い気持ちでした。しかし、事前学習会で実際にホクトさんを訪問させていただいたり、現地の学生に披露するヲタ芸をみんなで練習していく中で、この旅への目標や目的も立てて自分にとっていい経験になるような旅にしていこうという気持ちが強くなっていきました。さらに、行く前は自分のこんな英語が伝わるのかなどたくさんの不安がありましたが行ってみると周りの人は分かるまで英語をゆっくり話してくれたりしたおかげで自分から多くの英語を積極的に使えるようになりました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアのインターンシップに行く前の印象は、多文化社会で多くの民族の人や人種の人がいて、多文化共生は出来ているが、まだまだ発展途上国の一つであり他の国々の支援を必要とする国であるという印象でした。しかし、実際にマレーシアに行くとそのイメージはとて大きくかわりました。都市であるクアラルンプールでは、大きなビルが大きく立ち並び現地の高校では日本よりもタブレットなどを活用した授業を行っていました。そのような現実から私は、少し前までは発展途上国として認識されていた国々でも自分たちが知らない間にどんどん己よりも優れている国から技術を吸い取り知っているものより10倍、100倍成長しているんだと世界の現状を心に刻めました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは、海外進出をした日本企業であるホクトさん、おたふくソースさん、イオンマレーシアさんに訪問させていただきました。その訪問させていただいた企業さんの中でも1番心に残っているのはオタフクソースさんのソースを使った実践販売です。日本でも試食販売の経験がない中、どうしたらお客さんが興味を持ってくれるだろうかと自分たちで考え実際に現地のスーパーで販売をしました。最初は、お客さんは手に取ってくれるだろうかなどとても緊張や不安がありましたがやっていくうちに自分が思うおすめの点を分かりやすく伝えられるようになりました。インターンシップや大学生との交流などから私は英語を使うには間違えを恐れずに自分のわかる範囲の英語を最大限に利用して伝えようと思って喋ることが最重要だと改めて感じるようになりました。

4 今の目標や今後の進路について

私は将来の夢は興味が色々な分野にありまだ決まっていません。しかし、その段階にいる時に体験したマレーシアでの出来事は大きな影響を私にあたえました。今まではあまり興味のなかったフードビジネスについての研修も、色々なことを知っていくうちにどんどん興味が湧いていって、探究活動にマレーシアのことを取り入れてみようかなと思ったり、もっとハラルのことや多文化共生について学びたいなど感じるようになりました。以前より多くのことに興味を持つことができるようになったので、これからも自分から知らないことなどにたくさん踏み入れて、本当に自分がやりたいことに進めるようになっていきたいと思います。

5 帰国後の活動

今回のインターンシップでの良かった部分や自分の経験になった部分をより色々な人に知ってもらえるように、まずは身近な友達や家族などに多く話しました。また、学校生活では、クラスで時間をとって貰えるようお願いして、クラスの中で留学に興味があるが踏み出せない人、興味がある人、ない人みんなが関心を持って貰えるように経験を最大限に伝えたいと思っています。



初めてで楽しかった現地の高校生との交流



みんなで行った
思い出のツインタワー

将来の夢と希望が深まった7日間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このインターンシップを通して、自分の価値観が大きく変わった。参加する前、私は2度海外へ旅行したことがあり、世界を広く見つめることができていると思っていた。しかしそれはまだできていなかったのだと思う。今回のインターンシップでは、海外旅行では見ることのできない、その土地で実際に生活している人々の様子をうかがい知ることができた。私は実際に多くの人種が混ざり合っている仕事や学校を見て、多様性とはこういうことなのかと肌で実感した。まだ一週間の旅だけではわからないこともいっぱいあるので、今回の旅にとどまらず多くの国へ行き今後ももっと自分の価値観を変えていけたらと思っている。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアに対する私の印象については、新興工業国でありどの国よりも勢いを増して発展している国、というのが行く前の印象であった。実際に行ってみると、高層の建物ばかりで観光客も多く、歴史の教科書などに乗っている日本の高度経済成長期のような雰囲気を感じた。しかし、それだけではなく少し地方へ行くだけで街の雰囲気がガラッと変わり、未だ発展していないところも多く目立った。新興工業国の発展の裏側も実際に見ることができ、この現状はもっと多くの人に知ってもらわなければならないと感じた。また、マレーシアの人々はとても明るく、親切心があったこともとても印象的であった。日本人よりもおもてなしの文化を意識しているのかとさえ感じた。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは、訪問したどの企業も日本の企業でありながらマレーシア人のことを考えた全く新しい商品の開発や、ハラル認証を取得していた。異国の地で市場を拡大していくのには儲かろうという思いだけではなく、自分たちとは異なる文化の人々のことを理解しようとするのが大事なのだったと思った。学校訪問と大学生との市内視察では、とにかく私が一生懸命話せば、大学生や学校の生徒さんはしっかりと聞いて理解しようとしてくれて、とても楽しく時間を過ごすことができた。マレーシアで暮らす大学生から市内を案内してもらうことはとても新鮮で、新しい視点からマレーシアの魅力を知ることができた。

4 今回の目標や今後の進路について

今回のインターンシップをきっかけに、海外で活躍したいという意欲がとても高まった。私は以前から医療系の仕事に就きたいと思っているが、海外でも医療系の仕事をしたいという気持ちが芽生えた。一週間英語だけで話す生活を送ったうえであらためて自分の英語力のなさも実感したので、学校での英語の勉強を今まで以上に真剣に取り組み、英語でのコミュニケーションスキルをさらに高めていきたい。また、もっと世界の実態を理解するために東南アジアだけでなくいろいろな国へ出かけていき、さらに自分の価値観を変え、自分の持つ先入観や固定観念をなくして、将来の仕事にも学んだことを生かしていけたらと思っている。

5 帰国後の活動

まずは今回してきたことを友達にたくさん話して、マレーシアの魅力を身近な人に伝えたいと思った。今回の留学の仲間とまとめたスライドを作ったので、発表をする機会があったら、それを使って留学をしたいと思えるような発表をしたい。また、2年生では年間個人探究があるので、探究活動にも今回の活動を生かしていきたい。今回一緒に留学へ行った仲間や、マレーシアで出会った友達と交流を続けてマレーシアと日本の中が深まるような未来を作りたい。



クアラルンプール最大の輝きを放つ
ツインタワー



大学生とともに歩いたチャイナタウン

挑戦の7日間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、今回のプロジェクトに参加するまで海外に行ったことがなく、日本とは異なる文化、宗教、食文化など様々な初めてのものに触れることに対しての興味や関心が大きい反面、不安な気持ちも少しありました。また、私の英語のレベルで現地の人としっかりコミュニケーションが取れるかどうかとても心配でした。しかし、実際にマレーシアで7日間過ごし現地の人と関わっていく上で学んだことは、失敗を恐れず自ら発信していく力、積極的に意欲的に何事にも取り組んでいくことがとても重要なことであると気づきました。これは、コミュニケーションを取る上でもとても大切なことです。7日間という短い期間でしたが、今回のプロジェクトを通して私は人間としての力や知識が大きく増え成長することができました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアに実際に行って感じてしたのは多民族国家だということです。市内を歩くと、中国語や英語、マレー語など様々な言語が話されていたり、スーパーやショッピングモールにいくと異なった国の食材が多く置かれており、改めてマレーシアは様々な人種や文化で形成されているんだと感じました。加えて、マレーシアは61%がイスラム教徒であり、現地でヒジャブを着ている方やモスクに行き礼拝をしている方を見てマレーシアと日本の宗教の違いを理解することができました。また、マレーシアは経済が大きく成長している国なんだと、高層ビルやショッピングモール、クアラルンプールの近代的な街並みを見て実感しました。マレーシアは気候も暖かいことから、現地の方々は心穏やかな印象の方が多く日本人の私たちを優しく温かく受け入れてくれて、とても安心して一週間を過ごすことができました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップでは、イオンマレーシア、オタフクソース、HOKUTOなど海外に進出している日本の企業の方達にお話を聞かせて頂き、企業努力や方針を知ることができ、現地のスーパーでの日本食の試食販売や工場見学など実際に自分の肌で感じ体験することでより日本企業の素晴らしさなど理解を深めることができました。大学生との市内視察では、モノレールやバスなど現地の人が使う交通機関を利用したことで、現地の人々の生活に触れてより身近に感じる事ができ、旅行ではできない貴重な経験をする事ができました。学校訪問では、SERI RAMPAI 高校に訪問させていただき現地の高校生との交流を行いました。そこでは、自分から積極的に話し、完璧な言葉ではなくても相手に伝える！という気持ちが大切だと、実際に会話をしてみても気づきました。国や言語は違うけれど、同じ世代の人たちとこのような形で関わったことで、吸収することや学ぶことが沢山ありとても良い経験になりました。

4 今の目標や今後の進路について

今回のプロジェクトを通して、海外の文化や伝統など元々私が興味を持っていたことに対する理解や関心を深めることができた反面、私自身で海外の良さや日本の良さを周りに言葉を通して伝えることができないもどかしさを感じる場面が何度かありました。そのため、これからは自分の言葉で相手に伝えられるように、学校での英語学習や英語力を高めるために、リスニングやスピーキングにより力を入れて学習に取り組んでいきたいと思います。進路については、元々人と関わる仕事につきたいと思っていましたが、マレーシアに行って様々な人種の人と接したことにより、自分自身の視野が広がり価値観が大きく変わりました。これから海外に視点を向けて進路を考えていきたいです。

5 帰国後の活動

私が所属している部活動とクラスでの1時間程の留学報告会を予定しています。発表はスライドを作成し、マレーシアで経験した事や感じたこと学んだことを詳しく伝えていきたいと思っています。また、インスタグラムなどのSNSを使って、私がマレーシアで経験したことなどを発信していきたいです。私の発表を通して周囲の人に海外に行き学習をすることの良さなどを伝えていきたいと思っています。



訪問先で仲良くなった
現地高校生



ツインタワーでの集合写真

初めての海外研修

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

以前から、何度も親に海外留学を勧められていました。私自身も興味はあったものの、語学面での不安が大きく、これまで留学に行くことを躊躇していました。しかし、このままでは何も変わることができないと思っていたところ、このプログラムのことを知り、興味のある観光業を海外で学べるよい機会だったので参加を決めました。今回学んだことは、コミュニケーションをとろうとする姿勢が大事だということです。コミュニケーションをとろうとすることにより、私のつたない英語でも相手は理解しようとしてくれました。実際に現地の方々と会話していく中で、思うようにうまく話せなくても、会話が通じたことで自信に繋がりました。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアに対しては、東南アジアに位置し、あまり裕福でなく、発展していない国だというイメージを持っていました。しかし、実際にマレーシアに行ってみたらまったくそんなことはなく、無人で運転するモノレールや大型ショッピングモールがあり、日本と変わらない都市開発された街が広がっていて驚きました。一方で、一本裏の道に入るとまだまだ貧しい暮らしをしている人も多いので、徐々に格差がなくなっていくとよいと思いました。その他に、学校訪問の際に現地の高校生と話す機会があり、その中で日本のアニメや漫画が好きという生徒がとても多く、親日国だということを実感しました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

インターンシップで特に印象に残っていることは、ホテルでの職場体験と J-Horizons Travel の2つです。ホテルでのフロント業務では、お客様から英語で話しかけられた際にうまく受け応えできないことが何度もあり、自分の英語力のなさを痛感し、語学力をもっと上げる必要があると感じました。J-Horizons Travel では、マレーシアの方に向けての旅行プランを考えました。マレーシア人にとって雪は珍しいため、ツアーの時期を寒い季節にしたり、イスラム教徒が多いので食事はハラルのものを選択したりと、誰に向けたツアーなのか、何を主な目的とするかをよく考えながら旅程を立てることが重要だということ学びました。

4 今の目標や今後の進路について

私はホテルで働くことに興味があり、将来は観光業に携わりたいと思っています。そのために、今後の進路としては観光業を学べる大学に進学することを考えています。そして、自分の今後の選択肢を広げるために、いろいろな英語の外部検定試験を受けたいと思っています。今の具体的な目標は英語検定2級取得で、合格を目指して勉強に取り組んでいます。また、海外に行くときには言語の壁は避けられないと思うので、日常的に英語に触れて自分から英語を話す機会を作り、英会話力を向上させていくことも今後の目標です。将来に向けて、今自分にできることを最大限頑張っていきたいです。

5 帰国後の活動

まずは、身近な友達やクラスメイトへ今回体験したことを日常会話に交えて話し、興味をもってもらいたいと思います。学校ではホームルームクラス・新1年生に向けて報告会をすることが決まっており、また、留学の様子が高校ホームページにも掲載される予定です。さらに、SNSをうまく活用していき、このつばさプロジェクトのことや、留学の良さ、魅力を発信していきたいと思っています。



ペトロナス・ツインタワー



大学生との市内視察で訪れた
チャイナタウン

挑戦

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前の自分は、積極的に発言したり、自分がリーダーシップを持ち、みんなを率先して引っ張る、ということができていなく自分に消極的でしたが、帰国後には、今回のプロジェクトを通して、自分からコミュニケーションを取り、発言し、行動するということができるようになりました。それに加え、国際感覚も養え、人の話をしっかりと聞き、自分の行動に責任をもって生活しようというということが大事な事だと気づき、日々の生活の中で意識も高まりました。これが参加前と帰国後の私の変化です。

2 マレーシアに対する理解や印象について

マレーシアという国は、初めにどんなところなのかということは聞きますが、実際に行ってみて、人柄の良さや、多様な宗教が集まる中でも、それぞれの文化を尊重し合って生活をし、差別が一切ないことがとても素敵で衝撃を受けた国でした。そして、お仕事も自分の能力を存分に発揮でき、その力を必要としてくれる仕事に就くスタイルがとても素敵で憧れました。

主に、マレー系、中国系、インド系がありますが、私達はイスラム教のことについて学びました。参加する前まで知らなかったことが知ることができ、興味深かったです。現地に行き、体験しないと分からないことや、感じられないことが沢山ありました。

3 インターンシップ、大学生との市内視察、学校訪問から学んだこと

ANA クアラルンプール支店さんと、日本政府観光局さんへ訪問させていただきました。ANA さんでは、会社で行っている(イベントや企画)などの活動や、空港業務に関わっている全てのお仕事に対して詳しく教えて頂きました。普段私は海外支店の営業内容について、CA さんや整備さん、空港で働いている方々などがよく目に入りますが、その他の私たちが安全に、そして楽しく旅行ができているおかげはもっと沢山の仕事に関わって成り立っていることを知りました。

そして、マレーシアではそんな色々な業務に関わって成り立つ事が出来る、まさにチームワークを求められるお仕事に、多国籍国家でありながらも、それぞれの文化を尊重し合って生活出来ていることを知り、とても感動と凄いという気持ちがありました。日本政府観光局さんでは、日本にどうしたらマレーシアの方が観光に沢山訪れてくれるのか、また、こういったことを意識して旅行のパンフレットを作っているのかなどのお話をお聞きしました。

マレーシアはイスラム教があるので、その方達にあった旅行のプランや、紹介などの工夫がとても興味深いものでした。お話を聞いていると、マレーシアの方は、日本のアニメが好きだったり、食べ物や、風景、文化体験などが好きで、SNS の投稿も日本の紹介が熱がこもっている投稿がほとんどなことを聞いて本当に感動したし、嬉しかったです。私ももし、このようなお仕事につけたら日本の良さを各国に知らせると共に、訪れてくれた人一人一人が満足いただけるようなプランを考えたいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

今回の留学を通して今なりたいと思っている職業以外にも、魅力的な職業があることを知れました。

そして、私は、マレーシアでは転職が多いのを聞いて、その理由が常に自分の力を生かしてそれを必要としてくれる会社に行きたいからだと聞いて、今私がなりたいと思っている職業は CA と決まっていますが、もし、自分がその職業に務めることができ、働いていても、自分の新たな可能性と実力を目指し、沢山のことに挑戦することもいいなと思いました。

5 帰国後の活動

今回の留学で私は本当に行って良かったと思っています。ただひとつのことを勉強するだけではなく、現地に行ってみないと感じなかったことや、体験できなかったことができ、仲間と協力して過ごしていく中でそこからいろんなことが学べ、自分の視野と新しい価値観を得ることが出来ました。なので、自分がこういった体験をぜひ留学に行くのに迷っている方と、そうでない方もこの魅力を伝えて、行く機会を作りたいので私は学校を通して発表することと、SNS (Instagram) などを通して海外の魅力を発信していきたいです。



貴重な体験



New friends

